

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	プララトレキサート
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永 孝生
適応がん種	再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	PTGL-002
登録日・更新日	2017年11月28日登録、2022年2月22日更新
削除日	
出典	JCO 2011; 29 1182-1189 ジフォルタ適正使用ガイド ロイコポリン錠5mg 添付文書
入力者	湯山 聡

投与順に記入(抗がん剤のみ)

No.	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	プララトレキサート (ジフォルタ注射液)	20mg	30mg/m ²	<input checked="" type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他() (シリンジポンプを使用)	3~5分間	Day1, 8, 15, 22, 29, 36

1コースの期間	49日
投与間隔の短縮規定	<input checked="" type="checkbox"/> 短縮可能(1日) ・ <input type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>開始基準 ANC\geq1,000/μL、PLT\geq10万/μL(初回)5万/μL(2回目投与時以降)、T-Bil\leq1.5mg/dL、AST+ALT\leq100、SCr\leq1.5mg/dL、粘膜炎Grade1以下</p> <p>【休薬・減量・中止基準】</p> <p>①粘膜炎 Grade 2: ●Grade 1以下に回復するまで休薬し、再開する場合は用量は30mg/m²とする。 ●30mg/m²で再開後に再発した場合には、Grade 1に回復するまで休薬し、再度再開する場合は用量は20mg/m²とする。 ●20mg/m²で再開後に再発した場合には、投与中止する。 Grade 3: ●Grade 1以下に回復するまで休薬し、再開する場合は用量は20mg/m²とする。 ●20mg/m²で再開後に再発した場合には、投与中止する。 Grade 4: 投与中止</p> <p>②血小板数 5万/μL未満:5万/μL以上に回復するまで休薬し、再開する場合は以下の用量とする。 ⇒持続期間が2週間未満の場合:休薬前と同一用量 ⇒持続期間が2週間以上(1回目)の場合:20mg/m² 持続期間が3週間以上の場合又は持続期間2週間以上(2回目)の場合には、投与中止。</p> <p>③好中球数 ●500/μL以上、1,000/μL未満(発熱なし): 1,000/μL以上に回復するまで休薬し、再開する場合は休薬前と同一用量とする。 持続期間が3週間以上の場合には、投与中止する。 ●500/μL以上、1,000/μL未満(発熱あり)又は500/μL未満: 1,000/μL以上に回復するまで休薬し、再開する場合は休薬前と同一用量 ⇒持続期間が2週間未満の場合:休薬前と同一用量 ⇒持続期間が2週間以上(1回目)の場合:20mg/m² 持続期間が3週間以上の場合又は持続期間2週間以上(2回目)の場合には、投与中止する。</p> <p>④上記以外 Grade 3: Grade 1以下に回復するまで休薬し、再開する場合は用量は20mg/m²とする。 20mg/m²で再開後に再発した場合には、投与中止する。 Grade 4: 投与中止</p>
前投薬	なし
その他の注意事項	<p>-プララトレキサート初回投与日の10日以上前から、葉酸として1日1回1.0~1.25mg(調剤用バンピタン末2.0g~2.5g)を連日経口投与する。プララトレキサートの投与終了日から30日間は投与を継続する。</p> <p>-プララトレキサート初回投与日の10日以上前から、ビタミンB12として1回1mg(メチコバル注射液500μg 2A)を8~10週ごとに筋肉内投与する。プララトレキサート投与中は、投与を継続する。</p> <p>-プララトレキサート投与後24時間目よりホリナート(ロイコポリン錠)1回25mgを8時間間隔で6回経口投与する。プララトレキサートによると思われる口内炎等の副作用があらわれない場合には、ホリナート(ロイコポリン錠)1回15mgへ減量する。減量後にプララトレキサートによると思われる口内炎等の副作用があらわれない場合には、ホリナート(ロイコポリン錠)1回25mgとすることができる。</p> <p>-ホリナート(ロイコポリン錠)の投与後から次のプララトレキサート投与までの間隔は72時間以上あけること。</p> <p>-10mLシリンジで供給する。 投与時は、シリンジポンプを使用する。</p>

記入者	湯山 聡
確認者	竹内 正美